

会議録

記録者	渡邊
-----	----

供 覧	部 長	課 長	課長補佐 グループリーダー	主査・係長	グループ員

事 案	令和4年度龍ヶ崎市子どもを守るネットワーク代表者会議
日 時	令和4年7月21日(火)13:30～14:40
出 席 者	<p><出席></p> <p>助川土浦児童相談所副所長・岡田福祉部長(座長) 蔭山こども家庭課長・藤ヶ崎社会福祉課長・佐藤健康増進課長補佐 本橋指導課長・千葉教育センター長・国松文化生涯学習課長 菊地龍ヶ崎市医師会長・佐藤済生会病院小児科医 岩瀬竜ヶ崎警察署生活安全課長・根本龍ヶ崎消防署長 武田水戸地方法務局龍ヶ崎支局長・山崎主任児童委員 飯塚竜ヶ崎幼稚園長・松山私立まつやま大宮保育園長</p> <p><欠席></p> <p>竜ヶ崎保健所・歯科医師会・学校長会・八原保育所</p>
事 務 局	こども家庭課 渡邊室長・大野家庭児童相談員・足立家庭児童相談員 関口家庭児童相談員

要 旨

1 開会

2 福祉部長よりあいさつ(岡田部長)

4 議題

別添会議次第・資料に基づき説明。内容は以下のとおり。

(1) 龍ヶ崎市子どもを守るネットワークの概要(渡邊室長)

代表者会議・実務者会議・個別ケース検討会議の3部構成になっており、それぞれの役割や活動内容を説明

(2) 児童虐待対応における主な関係機関の役割(渡邊室長)

図をもとに各関係機関の位置づけや連携を確認

(3) 令和3年度児童虐待相談の状況(大野児童相談員)

令和3年度の児童虐待の相談件数は85件であった。内訳は、新規67件、継続18件である。

また、養育相談など相談が68件で全体相談数は、210件となっている。

虐待相談の区分については、心理的虐待には面前DVが含まれており、過去から比較すると件数が増えている。コロナウィルス感染拡大に伴い全国では、児童虐待が増加しているといわれているが、当市に限っては感染拡大の影響による顕著な増加は見られていない。

また、毎月、保健センターと要支援妊婦連絡会議を行いリスクの高い妊婦の情報共有を行っている。高リスクと判断されるのは、若年、精神疾患の既往歴のある人、外国人で日本語が話せない人、望まない妊娠の場合などである。

5 質疑応答

〈認定こども園〉

令和2年、3年というデータでコロナとの関連性っていうのは、どのように把握されていますか。

コロナによって例えば登園自粛等がかなり起きたことが虐待に結びついていないだろうかというところを教えてください。

〈事務局〉

国の方からもそういう調査も幾つかあったんですが、私どもの感覚としてはコロナだからといって、特に何か急激に増えたという感覚はないです。

虐待に関してはないんですけど、DVケースで今まで夫が働きに行っていたのに、コロナ禍になって自宅にいていうことで、今まで積み積もったものが、爆発して相談になったっていうケースがちょっと増えました。

〈認定こども園〉

コロナによって保護者の余裕は本当になくなってしまい、私の感覚からすると、それを虐待と呼ぶのかということはあるかもしれませんが、子供を守るという観点でいうと、やはり何らかの問題があると思うので、まだまだコロナが続くもんですから、市として調査をなさったらと思いました。

〈座長〉

同じ幼稚園、保育園の立場からいかがでしょうか。

〈私立保育園〉

保護者の方からはやっぱりその10日間ないし、待機期間ですね、大変だった。復帰された時にとにかく大変だったっていう声は間違いなく聞いているところなので、そこで保護者含めて、その待機期間中に保護者へどうですか、お母さんたちも大丈夫ですかっていうふうな連絡をしているっていうところは今までの普通の風邪休みとか、そういうのと違って、取り組んでいるところでは、あります。

〈座長〉

コロナの感染状況の話が出てきたので、もしよろしければ情報の提供ということで、医師の方からコロナの状況とか、何かあれば、お話いただければと思うんですが。

〈医師〉

コロナの初期、流行り初めてとしては学校、幼稚園も休校の時間が長かった。

そこで確実に医療機関で認識する虐待っていうのは非常に少なく、明らかに身体的な虐待でくることが多いのでほぼほぼ一部ですけど、明らかに増えたというふうに病院の先生方は仰ってましたので、全体で見ると、これの影響はやっぱりあったと思います。

ただ最近休校とかになる期間はどれも短くて、人間、慣れもあると思うので、初期は増えないけど今は以前と同じくらいになりつつあるっていうような感じの認識だと思います。

コロナに関して、その流行と虐待がどんどん増える、相関しているわけではないとは思いますが。初期はちょっと増えたという印象を受けています。この辺は小児科学会で全国調査結果でやっていて、回答もしていて、そのうちデータが出るんじゃないかなと思いますので、全国的なところで見ないとなかなかわからないと思いました。

〈医師会〉

医師会としても少なくとも初年度ですけど、特別そういう話は私たちの耳には現在のところ入っていません。

6 閉会

7 講話

「茨城県・土浦児相管轄における児童虐待の状況」 講師 助川土浦児童相談副所長

※講話後の質疑応答・意見

〈警察署〉

当然児童虐待があれば児童相談所に通告をさせてもらっているが、県警で力を入れているところは、将来的に家庭環境を見て児童虐待を起こす恐れがあるっていうのも押さえておかなければいけないのかなというところを、今県警では押さえています。そういった方も、児童相談所には連絡をさせていただき、状況を見てらっしゃるんですけど、今後この家庭の児童がこれからずっと幸せに生活ができるのかということも、見ていかなければいけないかと警察では今思っていることがありますので、情報共有というところで、述べさせていただきました。

〈認定こども園〉

この龍ケ崎市がどうやってネットワークを、具体的に構築し、動かしていくのか、どこで、話し合うのかというのは疑問です。どうやってネットワークを具体的に構築するのかっていうことを、お聞きしたいと思います。

チラシのことで、お家の人や大人の人から叩かれたり、ひどいことを言われたりした時は一人で悩まないで、何か心配なことがあったら信頼できる大人の人に相談してみようって書いてあるんですけど、これ子どもからしたら、一体誰が信頼できる大人の人なんですか。或いはどうやって子どもたちがこれを相談できるっていうところでは何か具体的になさってるんだったらそれを教えていただきたい。

〈教育センター〉

龍ケ崎市の小中学校においては、今年度、そのシャボテンログと言って、1人1台端末があるのでそれをもとに、朝の心の状態、体の状態を入力しながら相談したい人がいたら何か相談したいことがあったら押してというボタンがあります。

1人1台端末で行うのでは誰かに見られるとか、その相談したいといったことが他の人に知られないような仕組みで今年度から全小中学校で導入しています。

中学校においては令和2年度からスタンドバイというアプリがあります。昨年度まではストップイトというカードアプリを使って、匿名でいじめを見てそれを助けたいと思ってる人、それからいじめを受けていて、それを相談したい、もしくはいじめ以外でも自分のこと、保護者のこと、学校のこと、何でもいいから悩みがあったら、ここに相談していいんだよっていうようなそういうアプリも導入しています。

いじめについて言えば、それを学校で啓発しているので、信頼できる大人、それからそれがいなければ、そういったアプリも使って誰かにSOSを出そうということで啓発をしています。

あと、茨城県で行なっている子どもホットラインという24時間対応しているそういったものでも電話できるということで相談窓口の周知ということで、カードを配布したり、それから保護者においてもそれができるようにチラシを配ったりということで行っています。

〈事務局〉

幼稚園、保育園、保育所あるいは学校などの関係機関は、子どもさんと接する機会が一番多いということで、何かありましたら、そういう情報を私どもこども家庭課子ども家庭総合支援室や児童相談所にそういった情報をいただいて、そのお子さんの現状を確認しながら必要な支援或いは保護者の指導を行います。ただ、他にも必要な支援があると思いますので、その際には、関係機関の方にお集まりいただいて、このネットワークというような形で、個別のケースも会議などを開いていて支援していくものと考えております。つまり何もなく、こういう会議がなければつながりはできないと思います。

こういう形で会議をさせていただいて、関係機関からお互いに意見をいただいて、つながりを作っ

ていくということが重要だと思っておりますので、この後も引き続き皆様のご協力のほどよろしくお
願いしたいと思います。

……終 了……

《事務局から事務連絡》

●実務者会議の開催について

第1回龍ヶ崎市子どもを守るネットワーク実務者会議は8月23日午後に開催を予定しております。

新型コロナウイルスの感染状況によっては中止すこともあります。その際には、通知させていただきます。

今後とも引き続き、関係機関の皆様との連携及び情報の共有にご協力をお願いいたします。